

株式会社 ロータスイイト

今後も成長し続ける電子書籍市場に向けた 新たなるチャレンジ

海外のユーザーも視野に入れた新しいデザインへの取り組み



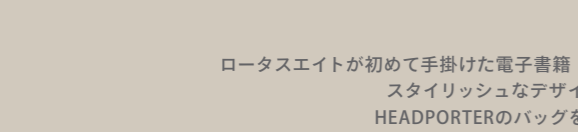
代表取締役 橋村 伸也氏 (右)
ディレクター 富田 直樹氏 (左)

これまでに数多くのムックや書籍の企画、制作を手がける一方、ヨガスタジオやカルチャースクール事業など、多角的な事業展開を行ってきた株式会社ロータスイイトが、新規事業として電子書籍の制作へと参入した。

ロータスイイトを初めとして、現在多くの編集プロダクションが新しい市場とAdobe InDesign、そしてAdobe Digital Publishingへと期待をかける。



同社代表取締役の橋村伸也氏。
これからも成長の見込める電子書籍市場に注目していると語る



ロータスエイトが初めて手掛けた電子書籍“HEADPORTER MAGAZINE”
スタイリッシュなデザインで若者を中心に人気を呼ぶ
HEADPORTERのバッグをマガジン形式で紹介している



海外での展開を考慮に入れて、日本語と英語のバイリンガルで楽しめる内容になっている



構成を担当した富田直樹氏。デザインだけではなく、構成からモデルまで、制作の多くを一人で担当した

株式会社ロータスエイトは、ファッション誌やヨガ専門誌など、ファッションとフィットネスを中心として、幅広いジャンルの出版物を企画・制作する編集プロダクションだ。また、本によって得た知識を実際に体感してもらうことで、人々の暮らしを豊かにしたいという企業理念から様々なタイプのヨガインストラクターによるヨガ教室やいろいろな分野が学べるカルチャースクールを経営するなど、多角的な事業を展開する。そのロータスエイトが、有名バッグブランドのHEADPORTERからの依頼を受けて、iPad向けの電子カタログである「HEADPORTER MAGAZINE」を制作した。これまでも多くの雑誌を手掛けてきたロータスエイトだが、電子書籍をリリースするのは初めての試みとなった。今回、電子書籍の出版に取り組むこととなった経緯と、実際に現場でDigital Publishingを使ってみた感想を同社の代表取締役である橋村伸也氏と制作を担当した富田直樹氏の両氏に伺った。

世界にアピールできる新しい市場
電子書籍の可能性についてはiPadが発売される以前から検討していたが、Digital Publishingのベータ版がリリースされたことで、本格的な電子書籍市場への参入を決定したそうだ。

「以前から何かできないものかと考えていたところに、富田が以前より付き合いのあったHEADPORTERさんとの企画が持ち上がり、“HEADPORTER MAGAZINE”を制作することになりました。」と、橋村氏は語る。

HEADPORTER MAGAZINEは、iTunesストアでリリースされるやいなや話題となりダウンロード数も着実に増えていった。クライアントの評判もよく、実際にバッグの注文も増えたという。

「とくに海外からの問い合わせが増えたという話も聞きます。これまで日本に来なければカタログが手に入らなかったのですが、iTunesを通じて、広く世界にアピールすることができたようです。」

安価な制作費用でグローバルな展開を行うことができるタブレットPCの市場に大きな魅力を感じることができたと、橋村氏は語ってくれた。

誰でも簡単に作れるからこそ、クオリティの高さが要求されます。

株式会社ロータスエイト ディレクター 富田 直樹氏

構成からデザインまでを一人でこなす
今回、HEADPORTER MAGAZINEの制作を担当したのは、同社に勤務する富田直樹氏だ。構成やデザインをする一方、一部撮影を行い、さらにはモデルとして登場するなど、マルチに活躍する富田氏だが、数カ月前までデザインの経験もInDesignを使ったこともなかったそうだ。

「今回、HEADPORTERの電子カタログを制作するにあたって、むしろ紙でのデザイン経験がなかったことが幸いしていると思います。iPadのユーザーインターフェイスは紙とも違うし、またWebでもありません。そうした先入観を持たず、トライ&エラーを繰り返すことで、iPadに適したインターフェイスデザインを考えることができたと思います。」

もともとカメラが好きで、PhotoshopやIllustratorなどを使いこなしていたこともあって、InDesignの操作にさほど難しさを感じなかったという。今回のHEADPORTER MAGAZINEでもバリロケやドキュメントページで使用した写真は自身で撮影したものさうだ。

「Digital Publishingはバージョンアップが繰り返されるたびに使い勝手が良くなっていきますね。今後もどのような機能が追加されていくか楽しみにしています。」

現在はiPadにのみ対応しているDigital Publishingのベータプログラムだが、今後はiPhoneをはじめとした、他のデバイスにも幅広く対応してくれればと、大きな期待を寄せている。

「InDesignとDigital Publishingでの作業は、むしろ紙媒体より手軽だと思います。今回は敢えて使いませんでした。動画などもサポートされているので、幅広い企画が考えられます。そして、なにより誰でも簡単に電子書籍を作れるところが魅力ですね。」と語る富田氏。

しかし、誰でも簡単に作れてしまうからこそクオリティが大事なのだとも言う。コンテンツ数の少ない今でこそ手にとってくれる可能性があるかもしれないが、結局のところ、クオリティが最も重要であるということだ。

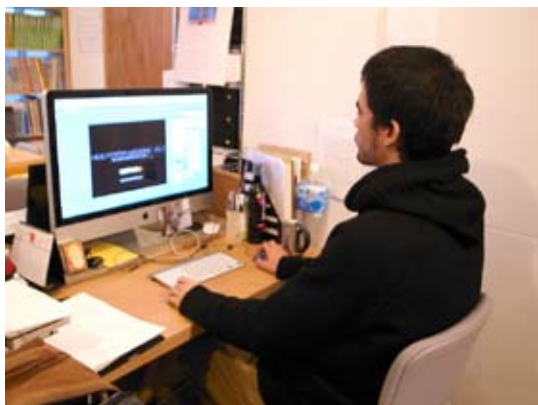
企業データ
株式会社ロータスエイト
東京都中央区東日本橋3-4-6
<http://www.lotus8.jp/>

チャレンジ
InDesignおよびDigital Publishingを利用したiPad用電子書籍の制作

ソリューション
画像、動画、テキスト含めたデザインをInDesignで行い、iPad用のアプリケーションとして制作した

ベネフィット
海外を含めたより多くのユーザーに最新のモデルを紹介できた

Tool Kit
・ Adobe® InDesign®
・ Adobe® Digital Publishing®



富田氏の仕事風景。Digital Publishingはバージョンアップごとに良くなっていると語る



HEADPORTER MAGAZINE 第2号では、動画にもチャレンジした。バッグ作りの職人たちの技を動きとともに観ることができる仕組みになっている

期待される電子書籍市場

HEADPORTER MAGAZINE 第一号の好調を受けて、現在二号目を作成中とのことだが、今後も別な企画での出版を考えているのだろうか。

「今回のように企業とタイアップしたカタログも多く手がけたいと思っていますし、また自社コンテンツとして日本の陶器や旅行マガジンなど、日本のカルチャーを世界に向けて発信するコンテンツを企画していきたいですね。文字とシンプルな写真で構成されたデザイン性のあるものを作成してみたいと思っています。」

その他にもNY発のファッション情報誌など、タブレットPCを利用したいくつかの企画が進行中だと橋村氏は話をしてくれた。

また、これまででは日本のものを海外に伝えるとき、アートという括りでしか伝えることができなかった。有名アーティストの作品ということでアピールすることで実売へと結びつけるしかなかったが、電子書籍が目される今なら無名の人をクローズアップできるチャンスかもしれないと富田氏は語る。

最後に iPad を初めとするタブレット PC の今後について、次のように語ってくれた。

「電子書籍の市場は、メーカー各社から次々とタブレット PC が発表されるなど、今後も大きな成長が見込まれる市場です。マイナス成長が見込まれる市場が多いなか、近年これだけの成長が見込める市場はありません。そういった意味でも、今はチャレンジすることに意味があると思っています。」

タブレット PC という、これまでになかった新しい市場に対して、多くの出版社、そして編集プロダクションが熱い視線で見つめているようだ。

今後、デバイスが普及すれば、制作する側の数もさらに増えていくことだろう。InDesign と Digital Publishing を通じて製作された先進性のあるコンテンツの充実が期待できそうだ。